

基本施策 『市街地・住環境』

施策の内容 (小施策) 『市街地の整備・改善』



◇背景

- ・全国的には人口減少社会が到来
- ・少子高齢化の更なる進展
- ・本市においては人口増加

◇地方自治体に求められるもの

- ・持続可能な都市構造の再構築
- ・住環境の整備
- ・多様な主体が連携・協力できるような支援



- 1) 計画的な土地利用
- 2) 市街地の整備・改善
- 3) 住環境の充実
- 4) まちなみ・景観の充実

2) 市街地の整備・改善

2013 2016 2020

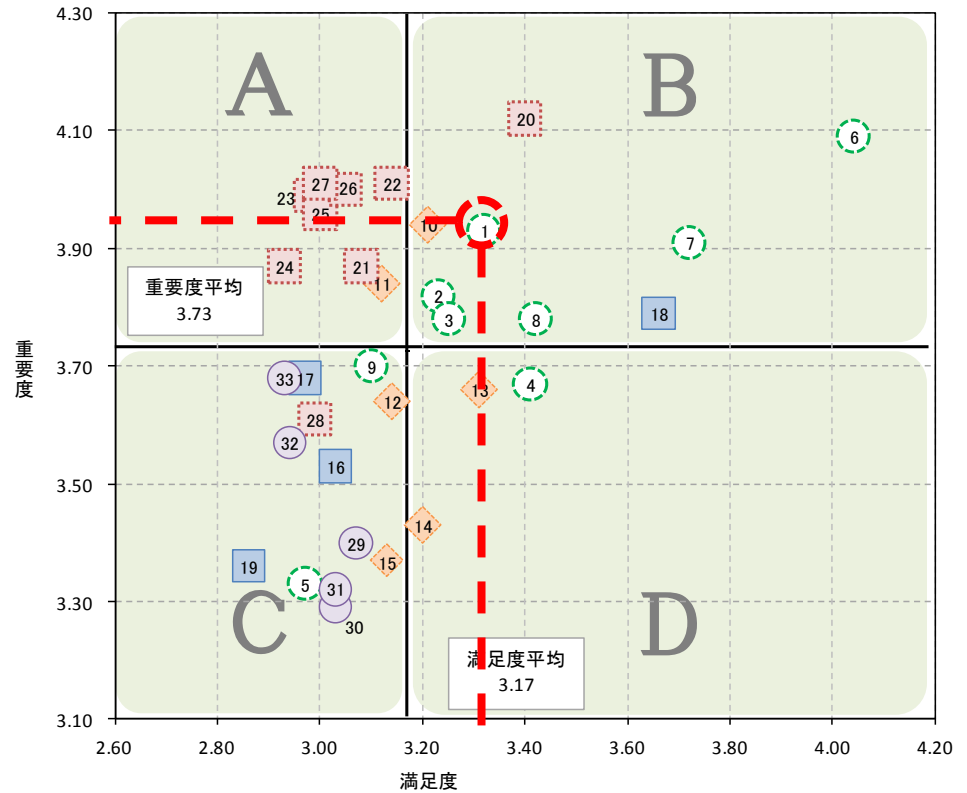
- | | | | |
|--|--|--|--|
| ① 中心市街地は、民間活力も活用し、環境と防災安全性に優れた活力と魅力あふれるまちとして整備を進めます。 | | | |
| ② 基盤未整備地区では、土地区画整理事業や地区計画制度などを活用した基盤整備を進めます。 | | | |
| ③ ハード・ソフトの両面からユニバーサルデザインを推進します。 | | | |



小施策評価シート

【資料P4】

		重要度・満足度の評価項目		
		1 良好な市街地や住環境の整備		
市政に対する 市民の評価	区分	24年	27年	
	重要度	ポイント	3.89	3.93
		平均	3.71	3.73
		順位	9/33	9/33
	満足度	ポイント	3.30	3.32
		平均	3.15	3.17
順位		8/33	7/33	



めざす姿 (生活像)	まちの 状態	都市環境と自然環境が調和した、魅力ある住みよいまちになっています。 地域の特性や規模に見合った都市機能が集積しています。
	市民の 暮らし	誰もが不安なく快適に生活しています。 自分たちのまちをより良くしようと、自分たちで考え、活動しています。



目標指標の達成状況

【資料P4】

目標指標 の 達成状況	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
大施策 レベル	活動指標 市街化区域D D地区の人口密度	人/ha					
	DID (Densely Inhabited District) 地区=人口集中地区 人口密度が40人/ha以上の調査区が集合し、合計人口が 5,000人以上となる統計地域。一般的に60人/haの地域は 良好な住環境が確保されていると言われている。		56.5 (17年度)	57.9 (22年度)	—	58.3	59.1
成果指標	まちづくりに関するワークショップ実施数	か所					
	主なテーマは中心市街地活性化、防災、道路など。 めざす姿「自分たちのまちをより良くしようと、自分たち で考え、活動しています。」の進捗状況を示す活動指標。		6	6	7	7	8
成果指標	刈谷駅周辺が活気や魅力があると思う市民 の割合	%					
	「刈谷駅周辺は、活気や魅力あると思いますか？」の設問 に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思 う」と回答した市民の割合 (N=2,500)		49.3 (22年)	58.6 (24年)	55.5 (27年)	55.0	65.0
成果指標	快適で便利な住環境が整備されていると思う 市民の割合	%					
	「刈谷市は快適で便利な住環境が整備されていると思いま すか？」の設問に対し、「そう思う」または「どちらかとい えばそう思う」と回答した市民の割合 (N=2,500)		74.7 (22年)	78.5 (24年)	79.8 (27年)	77.0	80.0



基本施策 (大施策)	11 市街地・住環境
施策の内容 (小施策)	112 市街地の整備・改善
小施策 の項目	① 中心市街地は、民間活力も活用し、環境と防災安全性に優れた活力と魅力あふれるまちとして整備を進めます。
	② 基盤未整備地区では、土地区画整理事業や地区計画制度などを活用した基盤整備を進めます。
	③ ハード・ソフトの両面からユニバーサルデザインを推進します。



追加指標の達成状況

【資料P5】

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
追加指標 小施策レベル	市街地再開発事業等実績数 中心市街地において、土地の共同化、高度利用を図る再開発事業等により市街地整備を行い、都市機能の一定の集約を実現し、賑わいの創出、まちなか居住の推進を図った地区数。	地区	4	5	6	6	8
		電線類地中化整備率	%	32.6	36.2	36.2	39.0
	市街地整備に関するワークショップ等実施数 ユニバーサルデザインにも配慮した高齢者・障害のある人など、誰もが安心して快適に生活できるまちを主なテーマとしたワークショップ等の実施数。 主な事業：中心市街地活性化、道路・公園整備など	か所	4	5	6	6	6
		バリアフリー化整備済駅舎数	駅	7	8	8	8
	歩行空間快適度	%	—	—	49.0	—	88.0
	歩行空間快適度とは、(1)歩車道の分離(2)透水性舗装(3)視覚障害者誘導用ブロック(4)無電柱化の4項目に関する進捗率を表したものの。						



追加指標の達成状況

【資料P5】

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
追加指標 小施策レベル	中心市街地における定住人口	人	10,480	10,649	10,670	—	11,000
	刈谷駅及び刈谷市駅周辺の中心市街地における主な町内人口						
	刈谷駅乗降者数	人/日	75,660 (21年度)	79,060 (23年度)	86,870 (25年度)	—	—
	刈谷駅における1日当たりの乗降者数						
	刈谷市人口	人	146,592	147,411	148,449	154,000	159,000
	各年度の3月1日現在における人口						
	車や自転車などで移動しやすい道路と思う市民の割合	%	60.2 (22年)	60.5 (24年)	65.4 (27年)	63.0	66.0
「刈谷市の道路は、車・自転車・歩きなどで移動しやすいと思いますか？」の設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合 (N=2,500)							



小施策を構成する事務事業

【資料P6-7】

事業No.	(小施策No.)	事務事業名	担当課
1	①	南桜町地区優良建築物等整備事業	まちづくり推進課
2	①	東陽町地区優良建築物等整備事業	まちづくり推進課
3	①	銀座A B地区整備事業	まちづくり推進課
4	①	市街地整備促進事業	まちづくり推進課
5	①	市道01-25号線他電線類地中化事業	道路建設課
6	①	都市計画道路3・4・551 刈谷環状線電線類地中化事業	道路建設課



小施策を構成する事務事業

【資料P6-7】

事業No.	(小施策No.)	事務事業名	担当課
7	①②	市道2-496号線他道路新設改良事業	道路建設課
8	①③	中心市街地活性化推進団体支援事業	まちづくり推進課
9	②	刈谷小垣江駅東部土地区画整理事業	区画整理課
10	②	刈谷野田北部土地区画整理事業	区画整理課
11	②	密集市街地調査事業	まちづくり推進課
12	③	JR逢妻駅駅舎改修事業	都市交通課



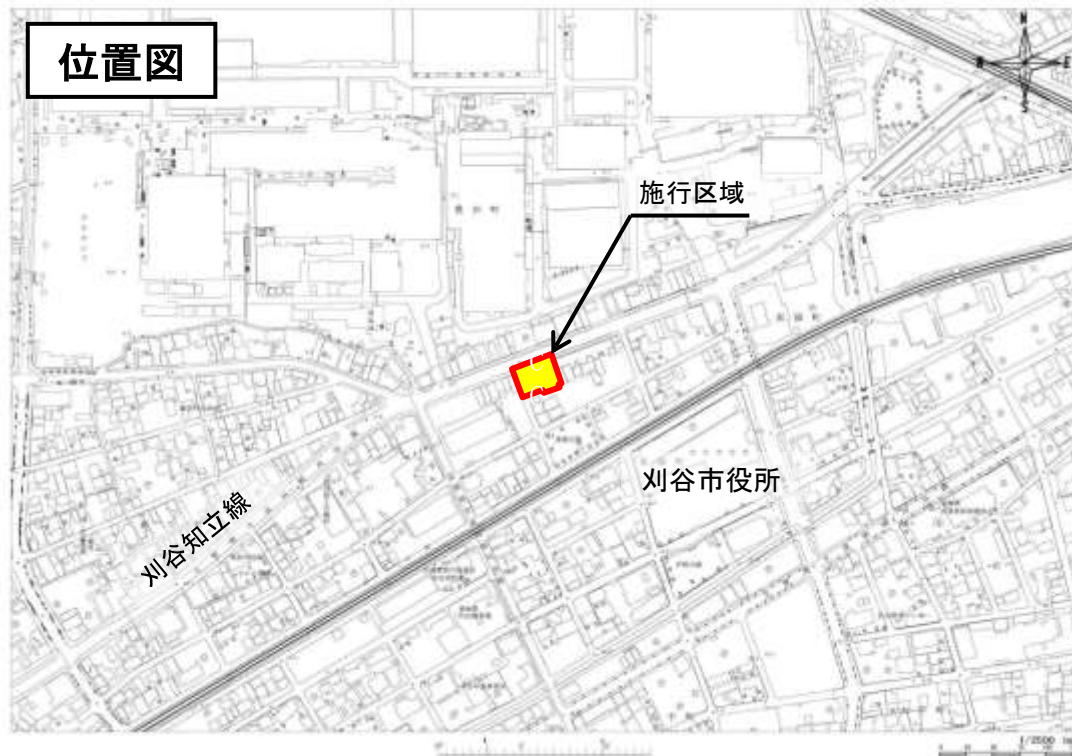
中心市街地活性化区域図

【資料P10-11】

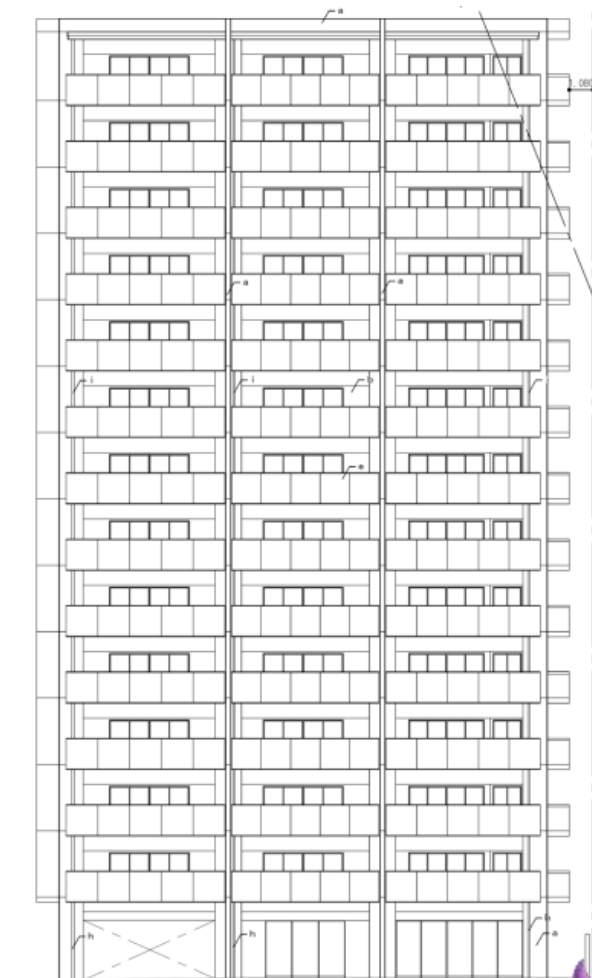


優良建築物等整備事業概要(例:刈谷東陽町地区)

位置図



立面図



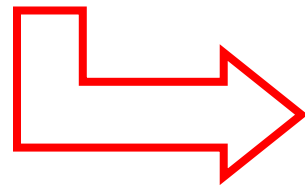
1F平面図



優良建築物等整備事業概要(例:刈谷東陽町地区)



整備前



施工中



優良建築物等整備事業概要(例:刈谷東陽町地区) 【資料P18-19】

		24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度計画		
B 事業 実績		—	—	・調査設計、土地整備費に対し、補助金を交付	・調査設計、建築工事(共同施設)に対し、補助金を交付		
	成果	適正に補助金を交付し、遅滞なく計画的に事業の進捗を図ることができた。					
	課題	・関係機関との協議に時間を要した。					
		指標名称(単位)		実績値			目標値
			24年度	25年度	26年度	27年度	29年度
D 実績	活動指標	事業進捗率(%)	—	—	12.1	63.7	100
	成果指標	建物建設によって増加する人口(人)	—	—	—	—	100
	他市との比較検証	・刈谷市において、5地区目の実施となる。 ・県内における事業実績(実施中含む)地区数(平成26年度末現在) 刈谷市5 豊田市1 岡崎市2 東海市1 北名古屋市2 豊橋市9 名古屋市30 計7市50地区					
O 実施							



優良建築物等整備事業概要(例:刈谷東陽町地区) 【資料P18-19】

単位：千円		24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (決算)	27年度 (予算)	26年度 事業費内訳		
V	事業費 ①	0	0	18,800	79,600	合計 18,800,000 円		
	財源	特定財源	0	0	11,775	59,700	負担金、補助及び 交付金	
		一般財源	0	0	7,025	19,900	18,800,000円	
	職員人件費 ②	0	0	2,112	1,871			
	総事業費 (①+②)	0	0	20,912	81,471			
建設事業	全体事業費 (単位：千円)		154,400	26年度特定財源名称				
	26年度までの累積事業費		18,800	社会資本整備総合交付金(国) 、市街地再開発事業等補助 金(県)				
	28年度以降の事業費見込		56,000					

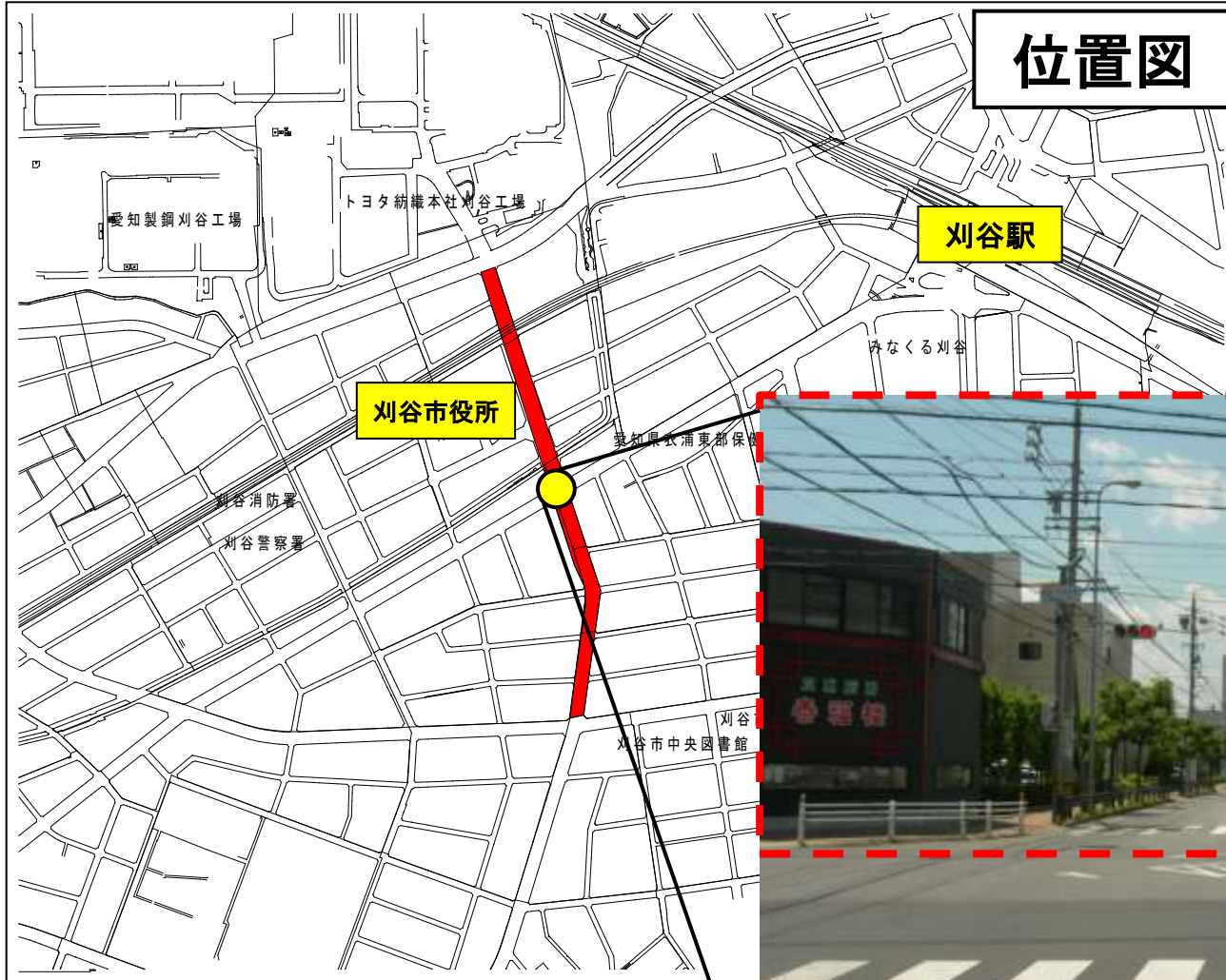


優良建築物等整備事業概要(例:刈谷東陽町地区)【資料P18-19】

会計名			東陽町地区優良建築物等整備事業	担当部	都市整備部
一般会計				担当課	まちづくり推進課
款	項	目		担当係	まちなか活性化係
8	4	8			
C H E D C 内 部 K 評 価 ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> 法的業務 市民ニーズ、社会需要 市民生活上必要である など 	高い	有効・高度利用により供給される住宅による、まちなか居住のニーズは高い。	
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> コストの節減、費用対効果 執行体制の効率性 手段の最適性 など 	普通	まちづくりの早期実現に向けては、権利者、関係者と共に効率的に進める必要がある。	
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 市が主体となって実施すべき事業であるか 総合計画との整合性 など 	高い	総合計画、都市計画マスタープランに位置付けられた本市の目指すべき都市構造を実現するために必要性の高い事業である。	
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 施策への貢献度 目標達成度 市民サービスへの効果 など 	高い	本市の目指すべきまちづくりの方向性に合致した事業計画を検討することは施策への貢献度が高い。	
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
・本市が目指す将来のまちづくりの方向性を見据え、住商の再整備等による良好な市街地環境の一体的かつ面的整備を推進することにより、土地の有効・高度利用を図り、まちなか居住の推進、定住人口の増加を図る。					



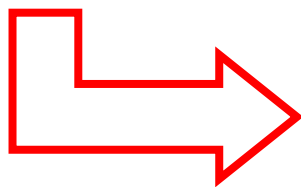
電線類地中化事業概要(例:市道01-25号線)



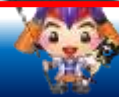
電線類地中化事業概要(例:市道01-25号線)



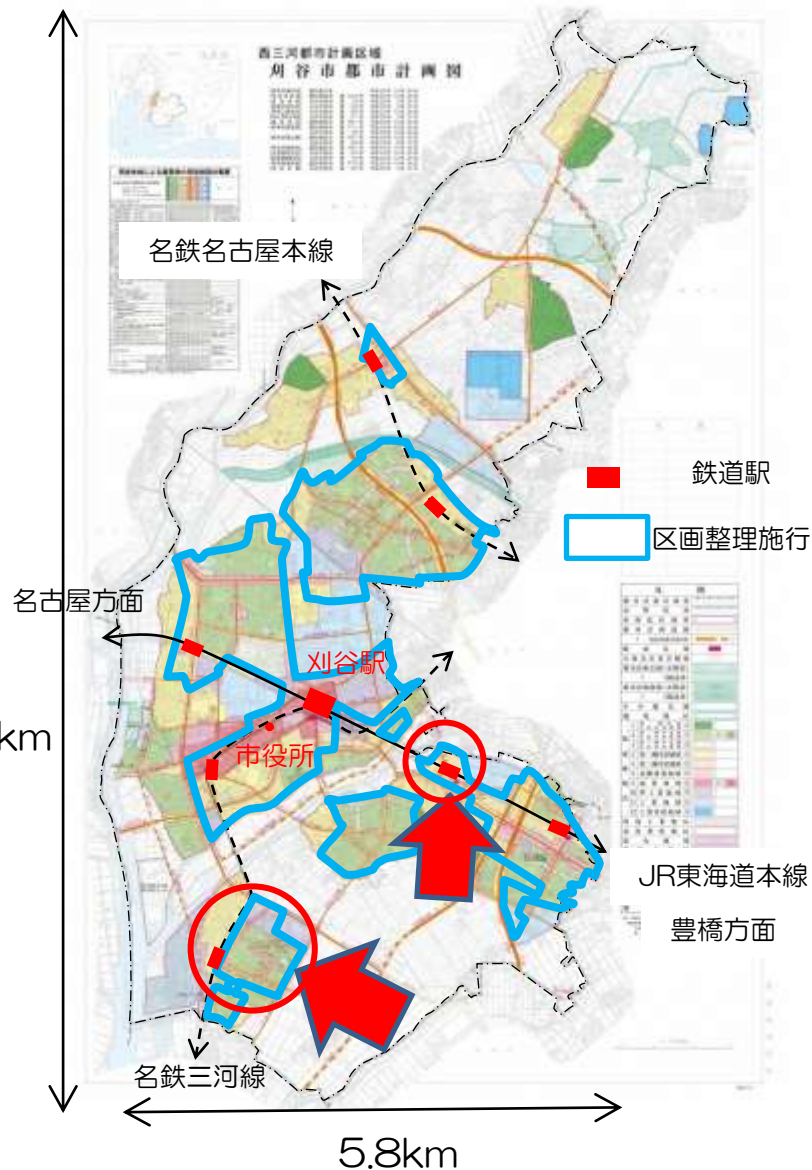
整備前



整備後



土地区画整理事業概要



○市面積 5,039ha

○市街化区域面積 2,347ha

○土地区画整理事業

駅周辺を中心に市街化区域の1,201haで実施

○施行区域（合計24地区）

市施行⇒11地区 組合施行⇒13地区

○施行中の地区（2地区）

• **小垣江駅東部地区** 面的整備率 95.6%

公共用地率 施行前9.6%⇒施行後28.5%

地区内人口 施行前2,104人⇒約5,400人

• **野田北部地区** 面的整備率 89.1%

公共用地率 施行前8.6%⇒施行後28.5%

地区内人口 施行前104人⇒約150人

【成果】

刈谷市は、昭和26年より土地区画整理事業を実施し、人口の増加と定住化に寄与してきた。



JR逢妻駅駅舎改修事業概要

- 根拠法律：高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（新バリアフリー法）
- 基本方針：移動等円滑化の促進に関する基本方針
- 対象：1日の平均利用者数が3,000人以上の駅（平成25年度／4,114人）
- 整備目標：平成32年度まで
- 内容：エレベーター及び多目的トイレの設置
- 事業主体：JR東海（東海旅客鉄道株式会社）
- 負担割合：国（地域公共交通バリア解消促進等事業）、JR東海、市（各3分の1）



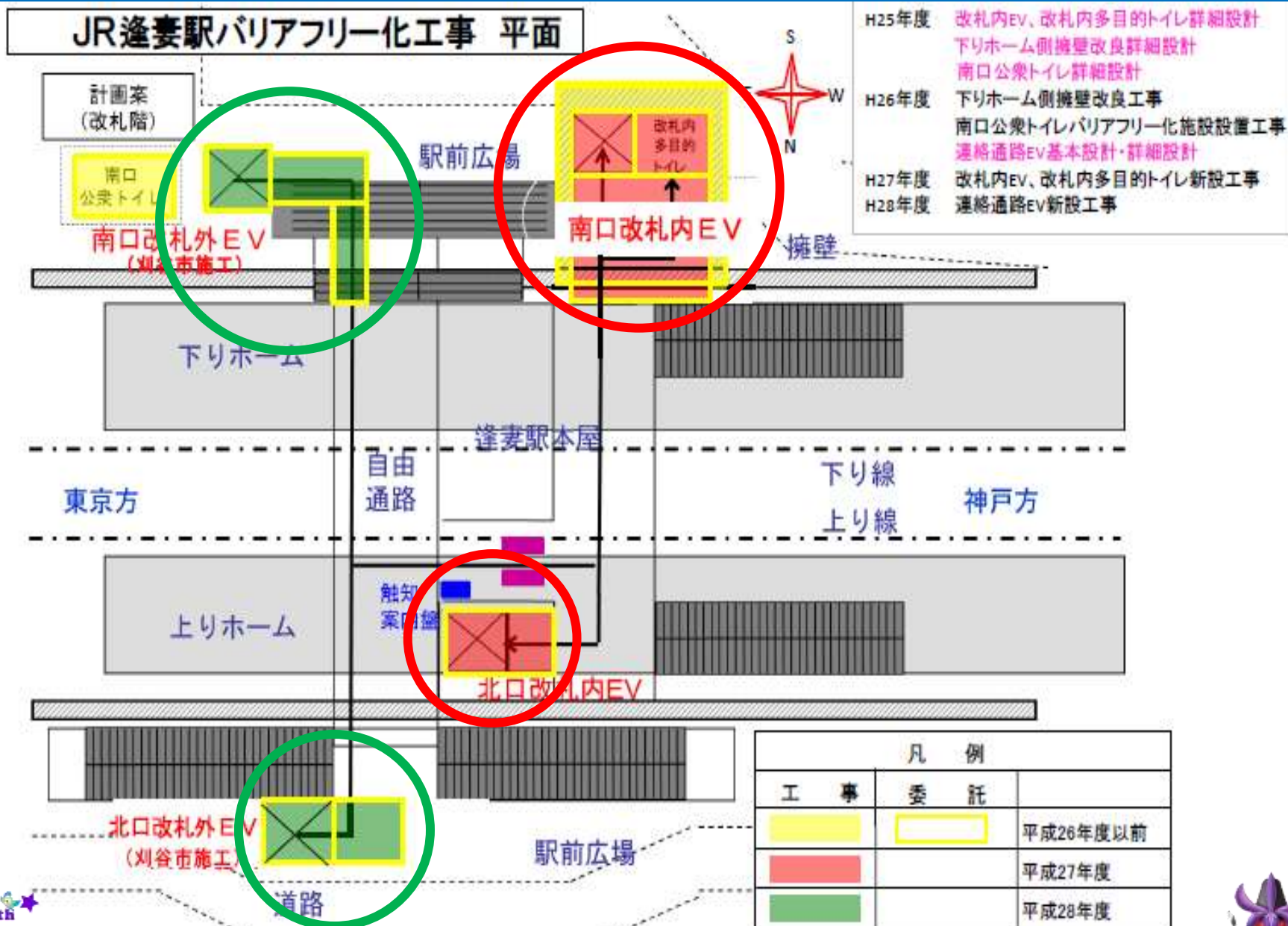
南口（整備前）



北口（整備前）



JR逢妻駅駅舎改修事業概要



小施策の項目①【成果】

【資料P9】

①中心市街地は、民間活力も活用し、環境と防災安全性に優れた活力と魅力あふれるまちとして整備を進めます。

・再開発事業などにより、まちなか居住の促進、定住人口の増加

・電線類地中化事業を推進し、歩道環境の向上、緊急輸送道路としての機能を強化



◇現状分析

- ・電線類地中化事業

⇒歩行空間快適度、防災安全性が向上

- ・中心市街地活性化推進団体支援事業

⇒賑わい創出、まちづくりに向けたワークショップを実施

◇課題

- ・さらなる事業推進が必要であるが、関係機関との協議や手続き等に時間を要し、事業着手が難航



追加指標の達成状況

【資料P5】

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
追加指標 小施策レベル	市街地再開発事業等実績数	地区	4	5	6	6	8
	中心市街地において、土地の共同化、高度利用を図る再開発事業等により市街地整備を行い、都市機能の一定の集約を実現し、賑わいの創出、まちなか居住の推進を図った地区数。						
	電線類地中化整備率	%	32.6		36.2	39.0	56.0
	電線類地中化整備率とは、無電柱化計画路線に位置付けられた道路において、電線類地中化の整備済延長を整備率として表したものの。						
	市街地整備に関するワークショップ等実施数	か所	4	5	6	6	6
ユニバーサルデザインにも配慮した高齢者・障害のある人など、誰もが安心して快適に生活できるまちを主なテーマとしたワークショップ等の実施数。 主な事業：中心市街地活性化、道路・公園整備など							
	バリアフリー化整備済駅舎数	駅	7	8	8	8	9 (28年度)
市内にある鉄道9駅（JR4駅、名鉄5駅）において、エレベーターや多目的トイレの設置によるバリアフリー化整備済駅舎数							
	歩行空間快適度	%	—	—	49.0		88.0
歩行空間快適度とは、(1)歩車道の分離(2)透水性舗装(3)視覚障害者誘導用ブロック(4)無電柱化の4項目に関する進捗率を表したものの。							



追加指標の達成状況

【資料P5】

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
追加指標 小施策レベル	中心市街地における定住人口	人	10,480	→	10,670	—	11,000
	刈谷駅及び刈谷市駅周辺の中心市街地における主な町内人口						
	刈谷駅乗降者数	人/日	75,660 (21年度)	→	86,870 (25年度)	—	—
	刈谷駅における1日当たりの乗降者数						
	刈谷市人口	人	146,592	147,411	148,449	154,000	159,000
各年度の3月1日現在における人口							
	車や自転車などで移動しやすい道路と思う市民の割合	%	60.2 (22年)	60.5 (24年)	65.4 (27年)	63.0	66.0
「刈谷市の道路は、車・自転車・歩きなどで移動しやすいと思いますか？」の設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合 (N=2,500)							



◇現状分析

・電線類地中化事業

⇒歩行空間快適度、防災安全性が向上

・中心市街地活性化推進団体支援事業

⇒賑わい創出、まちづくりに向けたワークショップを実施

◇課題

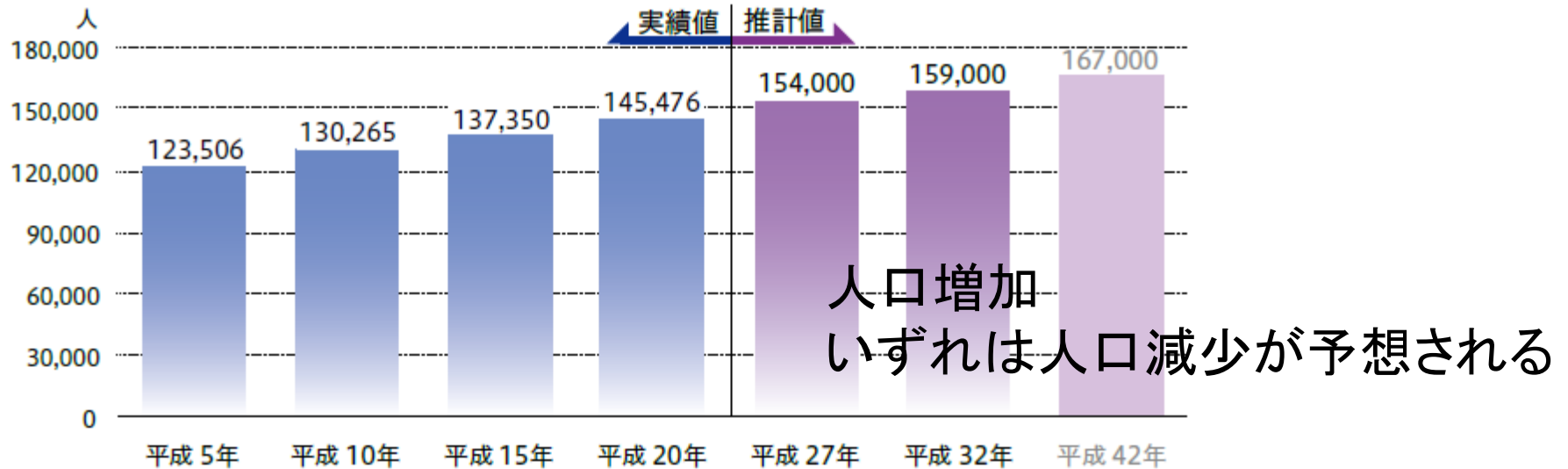
・さらなる事業推進が必要であるが、関係機関との協議や手続き等に時間を要し、事業着手が難航



小施策の項目①『今後の方向性』

【資料P9】

総人口



(資料)第7次刈谷市総合計画

◇今後の方向性

- ・民間活力の活用等によりスピード感のある事業実施
- ・まちの魅力を維持拡大



②基盤未整備地区では、土地区画整理事業や地区計画制度などを活用した基盤整備を進めます。



・土地区画整理事業

小垣江駅東部地区、野田北部地区の2地区において施行し、定住人口が増加した。

・密集市街地調査事業

災害危険度判定調査を行い、市街化区域における延焼及び避難危険度を5段階に分けて評価した。



小施策の項目②『現状分析と課題』

【資料P9】

◇他市との比較検証

比較項目	市街化区域の土地区画整理事業施行率					単位	%
刈谷市	碧南市	安城市	知立市	高浜市			
51.2	13.7	48.3	36.0	18.4			
備考	西三河5市における土地区画整理事業施行率（%）						
	面積（ha）	刈谷市	碧南市	安城市	知立市	高浜市	
	行政区域	5,039	3,586	8,601	1,634	1,302	
	市街化区域（A）	2,347	2,117	2,154	1,081	1,019	
	区画整理事業（B）	1,201	290	1,041	389	187	
施行率（B/A）	51.2	13.7	48.3	36.0	18.4		

近隣市より高い整備率

◇課題（区画整理事業）

- ・地権者の事業協力を得ることが難しくなっており、事業の長期化が懸念される。



◇他市との比較検証

比較項目	防災まちづくり活動地区数					単位	地区
刈谷市	碧南市	安城市	知立市	高浜市	豊田市		
3	—	1	—	—	5		
備考	防災まちづくり活動：居住環境の改善や防災性の向上に向けたまちづくりへの取り組みが必要と考えられる地区において、住民主導により地区の課題解決に向けてワークショップやまち歩きを行う活動のこと。（活動実績地区名：刈谷中部東部地区、小垣江本郷地区、東境児山高山地区）						

◇課題（密集市街地）

- ・道路拡幅などの基盤整備へとつなげるための、対象となる住民の合意形成が難航

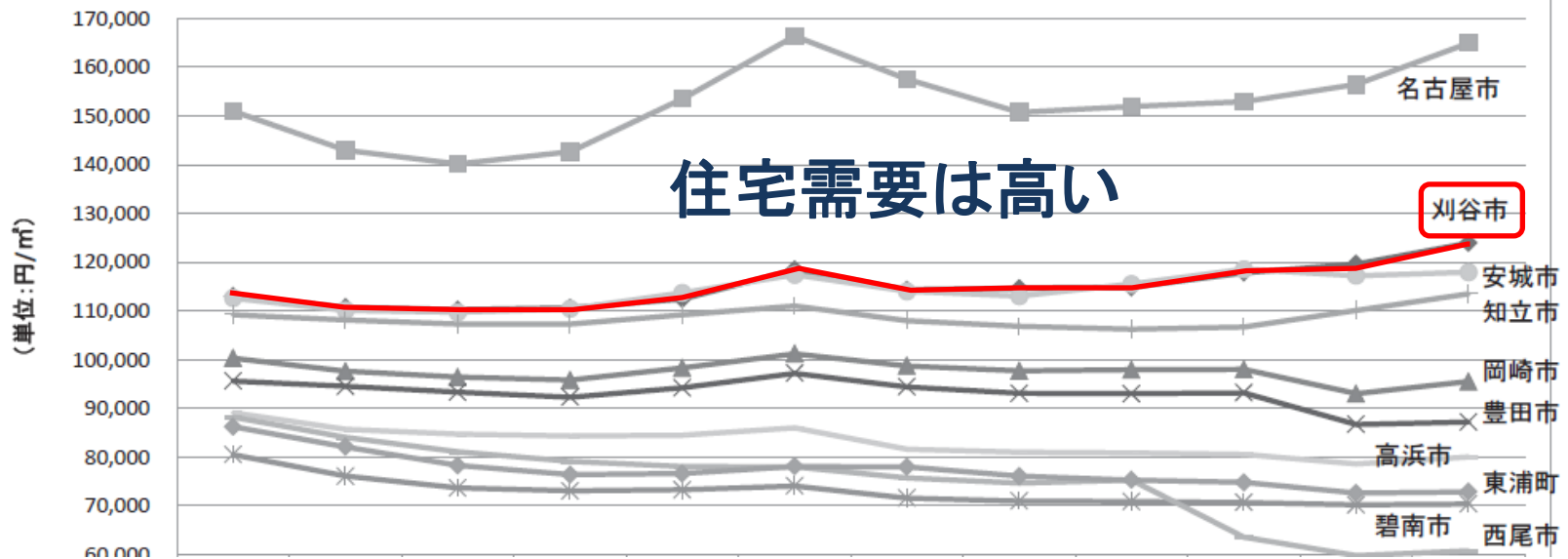


小施策の項目②『今後の方向性』

【資料P9,13】

- ・地権者の理解を深める交渉の場を持ち、事業協力を求め早期完了を目指す。
- ・区画整理や地区計画など、新たな基盤整備が必要

地価公示(基準日:1月1日時点)における住宅地の平均価格



③ ハード・ソフトの両面からユニバーサルデザインを推進します。

・逢妻駅南側の擁壁改良や支障となる公衆トイレの移転を行い、バリアフリー化に向けた工事等を推進した。

・高齢者や障害のある人なども含めたワークショップを実施し、ソフト面においてもユニバーサルデザインを着実に推進した。



◇他市町との比較検証

比較項目	車いす対応トイレ設置済駅数					単位	駅
刈谷市	碧南市	安城市	知立市	高浜市		1	駅前広場に設置済の駅も含む
9	2	8	1				
備考	西三河5市における誰もが利用しやすい駅づくり（駅）						
	駅数	刈谷9駅	碧南4駅	安城9駅	知立4駅	高浜3駅	
	オストメイト対応トイレ	8	0	5	1	0	
	ベビーシート対応トイレ	8	2	6	1	0	
ホームまで移動経路がある駅	8	4	8	4	3	※駅前出入口から介助者なし	

近隣市より高い整備率



追加指標の達成状況

【資料P5】

	指標名称	単位	実績値			目標値	
			24年度	25年度	26年度	27年	32年
追加指標 小施策レベル	市街地再開発事業等実績数	地区	4	5	6	6	8
	中心市街地において、土地の共同化、高度利用を図る再開発事業等により市街地整備を行い、都市機能の一定の集約を実現し、賑わいの創出、まちなか居住の推進を図った地区数。						
	電線類地中化整備率	%	32.6	36.2	36.2	39.0	56.0
	電線類地中化整備率とは、無電柱化計画路線に位置付けられた道路において、電線類地中化の整備済延長を整備率として表したものの。						
	市街地整備に関するワークショップ等実施数	か所	4			6	6
	ユニバーサルデザインにも配慮した高齢者・障害のある人など、誰もが安心して快適に生活できるまちを主なテーマとしたワークショップ等の実施数。 主な事業：中心市街地活性化、道路・公園整備など						
	バリアフリー化整備済駅舎数	駅	7				9 (28年度)
市内にある鉄道9駅（JR4駅、名鉄5駅）において、エレベーターや多目的トイレの設置によるバリアフリー化整備済駅舎数							
	歩行空間快適度	%	—	—	49.0	—	88.0
歩行空間快適度とは、(1)歩車道の分離(2)透水性舗装(3)視覚障害者誘導用ブロック(4)無電柱化の4項目に関する進捗率を表したものの。							



◇課題

<ハード>工事の着実な推進

<ソフト> 持続的なワークショップ運営のための自立した組織と人材育成

◇今後の方向性

ユニバーサルデザインに配慮した事業を推進

⇒ 誰もが安心して快適に生活できる
魅力あふれるまちを目指す



説明は以上となります。

ありがとうございました。

